

整理番号	49-4	事務事業名	児童図書学校巡回事業	作成部署	生涯学習部図書館	電話	373-7667	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	新谷良文	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H13	根拠法令等	図書館法・子どもの読書活動の推進に関する法律					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	市内小中学校との連携による子どもの読書活動推進に対する取り組みが必要となった。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	社会教育	(第3節)
	施策	読書活動の充実	(第5施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市内小中学校児童生徒及び教員	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	学校図書館の充実に向けて小・中学校とのネットワーク化を促進する。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	市内小学校の各学級に35冊の児童新刊書が入った運搬箱(愛称:豆次郎)を配置し、教員と図書館員により巡回させる。運搬箱は北広島市技能士会がボランティア製作したもの。 H14年4月-東部小・広葉小・大曲小・西の里小 / H14年12月-高台小・大曲東小・西部小 / H15年8月-緑陽小・若葉小・北の台小 また、豆太郎pkgとして、H15-広葉中・H16-広葉小の図書室をリニューアルし、図書を巡回。
		17年度	資料を更新しつつ、「豆次郎」は全小学校で継続する。また、西の里中のリニューアルを実施。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	2,073	1,617	1,029	1,500
	合計	2,073	1,617	1,029	1,500
人件費(概算)	人数(年間)	0.20	0.20	0.20	0.50
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	1,800	1,800	1,800	4,500
総事業費 +	3,873	3,417	2,829	6,000	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	実施校数	11校	11校	12校	16校
	年間移動総冊数	69,600冊	72,000冊	73,000冊	75,000冊
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	児童一人当たりの推定利用冊数	19.0冊	20.0冊	20.3冊	21.1冊
	(年間移動総冊数 ÷ 児童数)	(69600 ÷ 3672名)	(72000 ÷ 3600名)	(73000 ÷ 3600名)	(75000 ÷ 3550名)
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	児童一人当たりの費用 (総事業費 ÷ 児童数)	1,055円	949円	786円	423円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	公共図書館と学校との連携による子どもの読書推進の方策として、本事業は非常に効果的な連携事例として全国的に注目されている。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	学校との連携事業であり、当面は教育委員会全体で実施すべきである。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	対象が小学生に留まっており、市内小・中学校を対象とした取り組みが必要。	小・中全体を考えた巡回事業への発展が必要。
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	学校間移動時の図書運搬などを職員が行うのは非効率的である。	運搬業務の委託化は可能。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	児童生徒の利用はもとより、朝の読書や教科への応用など、学校による活用事例も増えている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	配本・運搬などの作業量が増加している。	配本業務の効率化に対する検討が必要。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	中学校への展開も必要である。市内の全小・中学校全体を対象とした事業展開へと拡大していく取り組みが必要である。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	運搬業務、配本業務の効率化などを進めた上で、中学校への拡大を検討していく。